

製品安全データシート

TTA26E

作成 : 2019年4月19日

改訂 :

● 項目1 化学品及び会社情報

化学品の名称 Bis(3,4-epoxycyclohexylmethyl) adipate
 会社名 Jiangsu Tetra New Material Technology Co., Ltd.
 住所 NO.6-2,Zhonggang Road, Taixing Economic Development Zone, Jiangsu, China
 担当部署
 担当者(作成者)
 電話番号 +86-523-87671608
 FAX番号 +86-523-87672323
 メールアドレス
 緊急連絡先番号 +86-523-87671608
 HP www.tetrachem.com.cn

 販売代理店 サンケミカル株式会社
 住所: 東京都中央区日本橋小伝馬町2番4号 三報ビルディング
 電話番号 03-3661-6681
 FAX 03-3661-7055
 メールアドレス yano@sun-chemical.co.jp
 HP <http://www.sun-chemical.co.jp/>

推奨用途及び使用上の注意

★ 項目2 危険有害性の要約

GHSの分類
 物理化学的危険性: 分類できない

健康に対する有害性:
 急性毒性(経口) 区分4
 眼に対する重篤な損傷・眼刺激性 区分2

環境に対する有害性: 分類できない

分類	内容
区分1~4	数字が小さい方が危険・有害性が高い。1(危険)>4(比較的安全)
区分外	数字で表示される区分より安全性が高い。
分類できない	分類に有効なデータが無く、有害なのか安全なのか、分からない。
分類対象外	この項目には無関係な製品。例えば、固体の製品では「自然発火性液体」の項目で、分類対象外になる。

● GHSのラベル要素



● 絵表示又はシンボル

● 注意喚起語 警告

● 危険有害性情報

H302: 飲み込むと有害
 H319: 強い眼刺激

● 注意書き

P305+P351+P338: 眼に入った場合: 水で数分間注意深く洗うこと。
 次にコンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。

【応急措置】

吸入した場合: 空気の新鮮な場所に移動し、呼吸しやすい姿勢で休息させること。
 飲み込んだ場合: 口をすすぐこと。無理に吐かせないこと。
 眼に入った場合: 水で数分間、注意深く洗うこと。コンタクトレンズを容易に外せる場合には外して洗うこと。
 皮膚に付着した場合: 多量の水と石鹼で洗うこと。
 皮膚(又は毛髪)に付着した場合: 直ちに、すべての汚染された衣類を脱ぐこと、取り除くこと。
 汚染された保護衣を再使用する場合には洗濯すること。
 ばく露又はその懸念がある場合: 医師の診断、手当てを受けること。

【保管】

容器を密閉して涼しく換気の良いところで施設して保管すること。

【廃棄】

内容物や容器を、都道府県知事の許可を受けた専門の廃棄物処理業者に業務委託すること。

項目3 組成及び成分情報

化学物質・混合物の区別

単一物質

化学名又は一般名

ビス(3, 4-エポキシシクロヘキシルメチル)アジペート

別名

化学特性

CAS番号

3130-19-6

成分及び濃度又は濃度範囲(含有率)

90%(他は非意図的不純物)

官報公示整理番号(化審法、安衛法)

3-3453

GHS分類に寄与する不純物及び安定化添加物

無し

▲ 項目4 応急処置

いずれの場合も医師の診断を受けること。

吸引した場合 新鮮な空気のある場所で安静にする。

皮膚に付着した場合 直ぐに多量の水と石けんで洗うこと。

眼に入った場合 多量の水で洗い流すこと。

飲み込んだ場合 多量の飲み水を与えること。

急性症状及び遅発性症状の最も重要な徴候症状
詳細な徴候及び症状は、項目11-有害性情報に記載する

吐き気

応急処置をする者の保護
医師に対する特別な注意事項

項目5 火災時の措置

消火剤

炭酸ガス、粉末消火剤、耐アルコール消火剤、乾燥砂

使ってはならない消火剤

棒状放水

火災時の措置に関する
特有の危険有害性

一酸化炭素、二酸化炭素の発生

特有の消火方法

消火を行う者の保護

自動呼吸機の着用

項目6 漏出時の措置人体に対する注意事項、
保護具及び緊急時措置

保護具を着用すること。

環境に対する注意事項

環境や地下水に放出しないこと。

封じ込め及び浄化の方法及び機材

吸収性のある物質
砂、けい藻土、酸吸収材、おがくず

二次災害の防止策

▲ 項目7 取扱い及び保管上の注意

取扱い		
技術的対策 (局所排気、全体換気)		「8. ばく露防止及び保護措置」に記載の設備対策を行い、 保護具を着用する。 「8. ばく露防止及び保護措置」に記載の局所排気、全体換気を行なう。
安全取扱注意事項		容器を密閉して保管すること。 換気のよい環境にしておくこと。
接触回避		「10. 安定性及び反応性」を参照。
衛生対策		
保管		
安全な保管条件		熱、直射日光にさらさない。
安全な保管保管包装材料	元の容器	

▲ 項目8 暴露防止及び保護措置

設備対策		局所換気、全体換気ができること。低所の換気ができる。
管理濃度	未設定	
許容濃度		日本産業衛生学会(2005年版) ACGIH(2005年)
保護具		
呼吸用保護具		換気が不十分な場合、着用すること。
手の保護具		保護具を着用すること。 浸透性がないこと且つ、製品、物質、試薬に問題がない物質。
眼の保護具		安全ゴーグル
皮膚及び身体の保護具		全体を覆う作業着
特別な注意事項		汚れた保護具は直ぐに着替える 作業終了前と食事の前は手を洗っておくこと。

項目9 物理的及び化学的性質

外観(物理的状態、形状、色)	無色～黄色 粘性のある液体
臭い	僅かにある
臭いのしきい値	無し
pH	データ無し
融点・凝固点	データ無し
沸点、初留点及び沸騰範囲	データ無し
引火点	113℃
蒸発速度	データ無し
燃焼性(固体、気体)	データ無し
燃焼又は爆発範囲の上限・下限	データ無し
蒸気圧	データ無し
蒸気密度	データ無し
比重(相対密度)	1.149g/cm ³ @25℃
溶解度	<2mg/L (ECHA)
n-オクタノール/水分配係数	データ無し

自然発火温度
粘度(粘性率)
その他データ

データ無し
データ無し
データ無し

● 項目10 安定性及び反応性

反応性
化学的安定性
危険有害反応可能性

通常の使用において安定
アルカリ、アミン、強塩基による熱で重合化のおそれがある

避けるべき条件
(静電放電、衝撃、振動など)

熱

混触危険物質
危険有害な分解生成物
その他

アルカリ、アミン、強塩基
一酸化炭素、二酸化炭素

★ 項目11 有害情報

急性毒性

データ無し

皮膚腐食性及び皮膚刺激性

データ無し

眼に対する重篤な損傷又は眼刺激性

データ無し

呼吸器感受性又は皮膚感受性

データ無し

生殖細胞変異性

データ無し

発がん性

データ無し

生殖毒性

データ無し

特定標的臓器毒性、単回曝露

データ無し

特定標的臓器毒性、反復曝露

データ無し

吸引性呼吸器有害性

データ無し

その他

項目12 環境毒性情報

生態毒性

データ無し

残留性・分解性

データ無し

生体蓄積性

データ無し

土壤中の移動性

データ無し

オゾン層への有害性

データ無し

他の有害影響

▲ 項目13 破棄上の注意

残余廃棄物
汚染容器及び包装

家庭用のゴミと一緒に処分しないこと。
法令、条令に従い処分すること。

項目14 輸送上の注意

国際規制

国連番号

品名(国連輸送名)

非該当

非該当

国連分類

(輸送における危険有害性クラス)

非該当

容器等級

海洋汚染物質

(該当・非該当)

非該当

非該当

MARPOLによるばら積み輸送される液体物質
(該当・非該当)

非該当

国内規制
輸送又は輸送手段に関する特別の安全対策

消防法の規則に従うこと。

応急措置指針番号

171

その他

項目15 適用法令

法令の名称を含む関係法令情報

化管法	非該当
安衛法	通知表示非該当
毒劇法	非該当
火薬類取締法	非該当
高压ガス保安法	非該当
消防法	危険物 第4類第3石油類 非水溶性液体2000L 危険等級Ⅲ
化審法	既存化学物質
船舶安全法	データ無し
航空法	データ無し
バーゼル法	データ無し
外為法	キャッチオール規制
港則法	データ無し

項目16 その他の情報

安全上重要であるが、これまでの項目名に直接関係しない情報

引用文献

オリジナルMSDS
独立行政法人 製品評価技術基盤機構 NITE
ECHA

その他

注意:

- ・危険有害性の評価はかならずしも十分ではないので、取扱いには十分注意して下さい。
- ・この製品安全データシートは、当社の製品を適切にご使用いただくために必要で、注意しなければならない事項を簡潔にまとめたもので、通常の実用性を対象としたものではありません。
- ・本製品は、この製品安全データシートをご参照の上、使用者の責任において適正に取り扱ってください。
- ・ここに記載された内容は、現時点で入手できた情報やメーカー所有の知見によるものですが、これらのデータや評価は、いかなる保障もするものではありません。また法令の改正及び新しい知見に基づいて改訂されることがあります。

赤字	必須情報	★	リスクアセスメント必須事項
青字	可能なら記載する情報	●	ラベルに記載する情報
黒字	無くても良い情報	▲	安衛法ラベルの注意書きの項目

色付けはGHS対応ガイドライン準拠
(2012年6月 日化協) (但し、ラベルに全て載せる必要はない)